

令和元年度 動作法集中研修会

マネージャー：出井一紀

- 1 期間 令和2年1月12日(日)、13日(月)
- 2 場所 埼玉県立宮代特別支援学校
- 3 総合指導 川間 健之介(筑波大学教授)
島村 隆博(埼玉県立蓮田特別支援学校教員)
- 4 トレーニー 10名参加
Aさん(42才・入所施設) Bさん(22才・事業所) Cさん(25才・事業所)
Dさん(12才・特支) Eさん(16才・特支) Fさん(33才・事業所)
Gさん(24才・事業所) Hさん(24才・事業所) Iさん(39才・入所施設)
Jさん(37才・事業所)
- 5 班長 菅原 恵(上尾かしの木特支)、西塚 裕人(越谷特支)、出井 一紀(蓮田特支)
- 6 トレーナー 15名参加(トレーナー10名、サブトレーナー5名)
蓮田特支：6名 越谷特支：6名 ひまわり特支：2名 草加かがやき特支：1名



7 研修会の概要

今年の集中研修会は、総合指導が1日目は本研究会会長の島村先生、2日目が筑波大学の川間先生という形での研修会になりました。はじめは、総合指導が変わってしまうことでトレーニーが混乱するのではないかといたった危惧もあったのですが、逆に「一度で二度おいしい」ではないですが、二人の先生方から指導助言いただくことで、学ぶことが多く、有意義な研修会になったように感じました。

<1日目>

動作法を90分×2回行い、各トレーニー15分ずつ島村先生にインテークしてもらいました。参加トレーニーが研究会のメンバーということで、月例会の取り組みを中心にしながら、トレーナーの力量を考慮して、2日間でどのような取り組みをしていくかを助言してもらいました。

研修では、緊張は「動きの中でゆるめる」のであって、トレーニー自身がゆるめるような働きかけが大切といった話をしてもらいました。実技では、身体の変化に気づくという趣旨で、あぐら座での股周りのゆるめを行う前後で足の踏みしめ感がどのように変わるかといったことを体験しました。ここで印象的だったのが、トレーニーが「自分の身体に気持ちを向ける」ための声かけや働きかけが大切ということでした。

<2日目>

1日目の取り組みを川間先生に評価してもらいながら、さらにどのような展開の取り組みをしていくとよいかといったアドバイスをいただきながら動作法を進めました。1日目の取り組みがさらに発展的な取り組みとなり、各トレーニーのリラクセーションが図れたり、身体の動きの変容が見られたりと成果がありました。

研修では、評価の視点として大切にしたいのが、トレーニーの注意の動きで、トレーニーの注意がどこに向かっているかを確認することが大切ということをお伝えいただきました。1つの課題でできたことを他の課題で再現できるかといった視点も大切で、その力を日常生活に生かすということが重要になってくるということでした。